

P3-11「佐賀県のがん情報サイト「がんポータルさが」における佐賀県データの一般公開に向けたファーストステップ」

佐々木和美¹⁾、原將太²⁾、長本敬幸²⁾、原田未希²⁾、高崎光浩³⁾
1) 佐賀大学医学部附属病院がんセンター2) 佐賀県がん撲滅特別対策室3) 佐賀大学理工学部

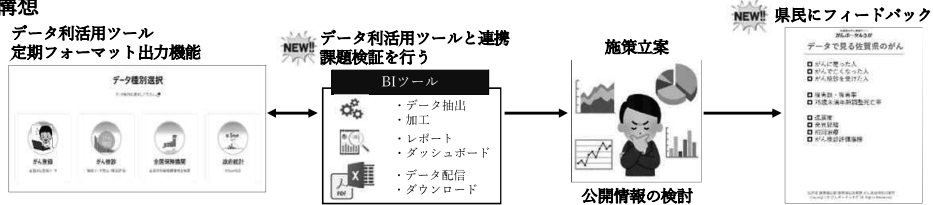
はじめに

「第4期佐賀県がん対策基本計画（4）がん登録の利活用の推進に掲げる取り組み施策・がん登録データの利活用の推進及び県民へのがんに関する情報の提供」において、佐賀県データの一般公開に向けての取り組みと今後の方向性を報告する。

BIツールを用いた模索

Microsoft Power BIを用いて、政府統計の窓口e-Stat（以下、e-Stat）から取り込んだ加工データ及びがん撲滅特別対策室が保有するExcelファイル等（公開可能なものに限る）から、公開する情報を検討した。

構想



データで見る佐賀県のがん

「がんに関する各種統計データを可視化し、分析できるツールです。本サイトを通じて佐賀県のがんの実態を広くお知らせします。」

一般サイト公開に向けて

確認したい部位をユーザーが選択すると結果を表示する仕組みとする。

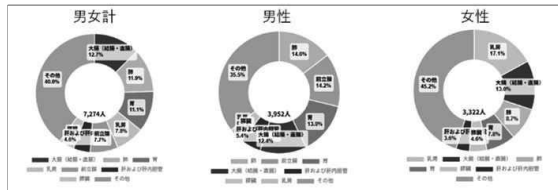
都道府県① 都道府県② 部位 性別 開始年 終了年
 全国 佐賀県 全部位 男女計 1995 2023

佐賀県におけるがん罹患の状況（2020年）

※上皮内がんを含まない

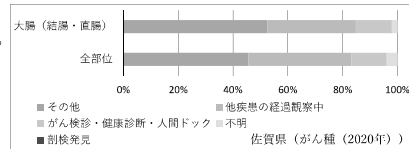
e-Stat

2016年以降のデータから2020年を選択すると、県全体では大腸がん、肺がん、胃がんの順に多く、男性では肺がん、前立腺がん、女性では乳がん、大腸がんの順に多いことが見てわかる。



医療機関向けには、発見経緯、初回治療など公開されているデータから佐賀県値を共有している。

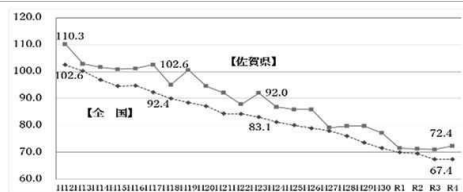
(例) 発見経緯から、全がんと大腸で比較すると、その他、自覚症状があって受診し診断に至った割合が若干高い。



全がん75歳未満年齢調整死亡率の年次推移

e-Stat

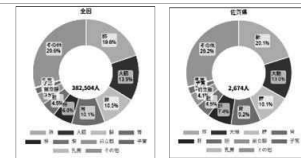
佐賀県は全国に比べて、がん死亡率が高いことを視覚的に伝えている。



がん死亡の部位別割合（令和5年）

厚生労働省

2023年度のがん死亡の部位別割合では、全国と佐賀県ともに同じような傾向を示しており、上位から、肺がん、大腸がん、膵臓がん、胃がん、肝がんの順に死亡者が多いことがみえてわかる。

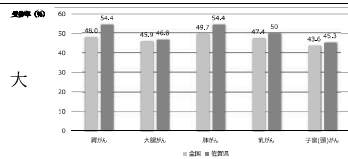


がん検診受診率の状況

厚生労働省

令和4年国民生活基礎調査
X40-09表(死亡し、年齢別)X40-09B

国民生活基礎調査によるがん検診受診率の状況から、2022年度の胃がん、大腸がん、肺がん、乳がん、子宮(頸)がんを公表する方針とした。



検診評価指標の公開

厚生労働省

地域保健・健康増進事業報告

指標を公表することで、市町担当者が他の市町の評価をいつでも確認できるため、問い合わせによる佐賀県、市町双方の作業時間が不要となる。

| 市区町村 | 胃がん(%) | 大腸がん(%) | 肺がん(%) | 乳がん(%) | 子宮(頸)がん(%) |
|------|--------|---------|--------|--------|------------|
| 佐賀県 | 45.6 | 46.6 | 49.7 | 47.4 | 45.3 |

今後の方向性：

都道府県がん診療連携拠点病院として、都道府県レベルでのがん情報の提供が求められており、当院はがん撲滅特別対策室と連携し、佐賀県におけるがん罹患・死亡の状況を先行公表している。その他の関連データについても、がん対策を行うに至った経緯も含めデータとして広報できるよう今後も検証を繰り返し、掲載内容を拡大していく。

(COI：無)